



## 「信仰による義人は生きる」

～神への愛＝賛美と人への愛＝信頼～

「そう、最高の知らせ(ゴスペル)によって神が慈善にあふれ、義理堅いことが示された。1人の完璧な忠誠心が多くの忠誠へとつなげられた。『神を信頼することで認められた者は、“生きる”』【聖書：ハバクク書24より引用】と、聖書にあるとおりだ。」

ローマ人への手紙1章17節 [アライヴ訳]

太平洋戦争が終わり73年の歳月が過ぎました。戦中戦後の世代の方々もどんどん高齢になり、その数も減ってきています。あの惨い戦争の傷跡も癒えて、平和への感謝も薄められつつあります。生活が豊かになり、欲しいものが手に入り、何の問題もないように見える時代になりました。しかし、私たちの心には虚しさの大波が押し寄せて来ているように感じます。若者たちは一体何を目標として生きて行ったら良いのか？いまの小学生の最もなりたい職業は、「ユーチューバー」だそうです。楽しい友達同士でワイワイやりながら、作り上げていく映像が上手くいったら、多くの人々に見てもらうことができ、年間1億円を稼ぐユーチューバーもいるそうです。(そんなことをうちの小4の次女に教えてもらいました…。)

昨日は土曜日でしたが、上田オンリ教会でなされた「賛美セミナー」に出席しました。小学校3年生までこの教会におられた川村喜輝さんが25歳になられていて、韓国の神学校3年生で、オンリ教会の日本語部の賛美と中高生担当の伝道師として活躍されていますが、彼が素晴らしいメッセージを語って下さいました。その中で、多くの学びをいただきましたが、二つの言葉が心に残りました。一つは、アメリカのジョン・パイパーという牧師先生の言葉です。「宣教は終わります。しかし、礼拝と賛美は永遠に続きます」。そして、「礼拝と賛美は天国でも捧げられ、天国は完璧な場所で、そこでは今でも24時間365日絶え間なく天使たちによって神様への賛美がささげられています。しかし天国では決して捧げられない賛美があります。それはどんな賛美でしょう？」と質問されました。その答えは、「天国では苦しみや悲しみ、涙はありませんが、この地上では、苦しみ、悲しみ、涙があり、その中で賛美をささげることができる」という内容でした。私たちがこの地上で捧げる賛美、礼拝は最高の天国に行ったら捧げられない賛美があるということです。私たちがこの地上で捧げる神様への賛美、礼拝を神様ご自身はどれだけ喜んで受け止めてくださっているか分かりません。しかも、苦しみの真ん中で捧げる賛美はどんな宝石よりも輝いています。

「信仰による義人は生きる」。どんなことがあっても神様を信頼し、信じ続け、従順続けることほど尊い信仰はありません。「信仰・希望・愛」が永遠に残るものと言われますが、その中で最も尊い「愛」に生きることが最も素晴らしい生き方です。神への愛＝賛美。人への愛＝信頼。今週もその豊かさの中を歩み続けたいと願います。